



西日本区中部ホームページ・http://www.ys-chubu.jp/

2012年7月号

「主題」

- 国際会長 : 世を照らす光になろう
 アジア地域会長 : 歳月はY'sをワイズ(賢者)にする
 西日本区理事 : 先頭に立ってワイズの光を輝かそう クラブで、地域で、国際社会で
 中部部長 : 前へ! 声を掛け合い
 プラザクラブ会長 : 明日に希望を クラブに活力を
 強調月間・ポイント:【Kick-off EMC-C MCのCはConservation。クラブの健全な運営と維持、存続から今一度、クラブが健全に運営されているかチェックしてみましょう!】

7月例会および今後の予定案内

【7月第1例会】

日時: 7月12日(木)・18:45-
 場所: 名古屋YMCA会議室
 内容: (1)前期会計報告および今期行動計画発表
 (2)卓話「己を知る」 講師: 近藤博之氏

【7月第2例会】

日時: 7月26日(木)・18:45-
 場所: 名古屋YMCA会議室
 出席義務者: 役員(高田・榎田・常盤)
 8月担当者(大島・鈴木)
 9月担当者(高田・小澤)

【今後の予定】

1. 日和田キャンプ場開設準備
 日時: 7月21日(土)-22日(日)・現地集合13:00
 場所: 日和田キャンプ場・高山市高根町留之原
 会費: 1500円/人 お酒・食べ物各自持ち寄り歓迎
2. 8月第1例会 日時: 8月9日(木)
3. パレットキッズとマス釣り
 日時: 8月12日(日)・現地集合10:00
 場所: みやま荘・長野県木曾福島郡木曾町新開 7618-3
 TEL. 0264-27-6177
4. 8月第2例会 日時: 8月23日(木)
5. 第16回中部部会
 日時: 8月26日(日)・13:30
 場所: 名鉄ニューグランドホテル
6. パレットキッズとハゼ釣り
 日時: 9月8日(土)・現地集合10:00

6月例会およびその他活動報告 (敬称略)

役員	会員氏名	出席者				
		1	2	①	②	③
直前会長	大島 孝三郎	○	○	○	○	
副会長	小澤 幸男	○			○	
書記	榎田 守隆	○	○	○	○	
	後藤 猛	○	○	○	○	
	島崎 正剛	○		○	○	
会長	鈴木 誉三	○	○	○	○	
	高田 廣	○	○	○	○	
会計	常盤 真理子	○	○			
連絡主事	万福寺 昭美	○	○			
課外活動		①西日本区大会 6/9-10				
		②老人ホームへの音楽慰問 6/24				

出席率・%					100.0	
		当月		累計		
クラブファンド・円		0		32300		
8月号寄稿者(400字詰原稿用紙4-5枚程度)・鈴木						
9月号・島崎/10月号・高田/11月号・大島/12月号・後藤						
1月号・常盤/2月号・万福寺/3月号・小澤/4月号・鈴木						

【2012-13年度クラブ役員】大島孝三郎・メール委員/小澤幸男・Yサユース/榎田守隆・広報事業.ブリテン担当. HP委員
 後藤猛・副会計/島崎正剛・EMC. 交流/鈴木誉三・会計監査. 地域奉仕. 環境/高田廣・ファンド/万福寺昭美・連絡主事

EMC=Extension, Membership & Conservation Eは新クラブを設立すること。MCは新会員増強と意識高揚をはかること。ワイズメン運動を直接拡大強化する事業である。

新会長高田廣挨拶

会長のテーマ 『明日に希望を、クラブに活力を』

今年度我がプラザクラブの会長を務める事になりました、高田と申します。まずテーマに掲げました「明日に希望」とは、プラザクラブに若い息吹を注入することに努力してゆくということです。現在クラブのメンバーは高齢者が多く、若いメンバーを広く募り活力あるクラブにしたいと思っております。また支援活動は先輩諸氏のお意思を継ぎ、例年通り養護老人施設の慰問と軽度発達障がい児と共に、野外活動を行います。私の年齢こそ我がプラザクラブの最年長ですが、まだワイズ歴は浅く無知ですので、一生懸命努める所存です。皆様のご指導を宜しくお願い致します。終わりに私の友人が贈ってくれた、フレーズをご紹介します。

「人生は輝き続けるため常にチャレンジ、年齢を気にせず楽しむもの、頑張り過ぎず諦めない、年齢と経験は社会に寄与するもの、花の50代、はじける60代、笑顔の70代、チャレンジの80代、安らかな90代、そのため水と栄養のバランスにこだわり、健康第一の生活習慣作りをする。」

YMCA、ワイズのために頑張ります。

6月第1例会(POM)報告



(全員集合、正気のうちに「ハイ、チーズ!!」)



(荒川次期中部部長、スタッフの森本さんと密談中?)

毎年6月恒例のPOM(創立記念)行事1泊旅行は、クラブの財政事情により、14日ケンポーでの飲み会に代えた。メンバー全員集合に、南山クラブの荒川次期中部部長、森本さんが8月開催の中部部会勧誘に駆けつけた。大島会長、高田次期会長の挨拶と6月24日の「老人ホームへの音楽慰問」の確認を終え、細かい報告事

項は割愛して乾杯、あとはグダグダとテーブルの其処此処(そこここ)で他愛ない話が続き8時半お開きとなった。

6月第2例会報告

日時:6月28日(木)・18:45-20:30

場所:名古屋YMCA会議室

1. 会計引継ぎ(略)
2. 報告事項・大島

(1) 第16回西日本区大会実行委員増員

事務局よりプラザより1人増員の要請があり小澤さんを推す。

現在の実行委員は島崎・大島・高田・鈴木さん。

(2) 第15回西日本区大会プラザ受賞

以下3項目の達成賞が授与された。①出席率90%以上 ②CS・TOF・FF献金トリプル ③BF目標

3. クラブ全会員の名刺作成・高田

会長50枚、その他20枚、原稿は櫛田・万福寺さんがパソコンで作成する。なお、本人の連絡先は全員携帯電話とする。

4. YMCA連絡事項・万福寺

詳細は1面の「今後の予定」欄参照。

西日本区大会報告

第15回西日本区大会が6月9日、滋賀県立文化交流会館において2日間の日程で開催した。テーマは「人と人とのシンフォニー 響かそうワイズメン IN びわ湖」。西日本各地、遠くはカナダからと総勢830人が参加し、この1年を締めくくり、来期へ飛躍する心意気を示す数々のプログラムが行われた。



(バナーセレモニー、わが大島会長は左から3番目に旗を掲げる)

大会初日は、バナーセレモニーを皮切りに浅岡西日本区理事の開会宣言に長浜クラブ会長の挨拶、奈良傳表彰式と続き、9地域の部長による報告を最後に午後5時に終了した。7時から長浜ロイヤルホテルに場所を移し、懇親会が盛り沢山のイベントとともに賑やで華々しく催された。

大会2日目は会場を長浜文化芸術会館に変えて開かれた。今年度を締めくくる表彰式があり、わがクラブは出席率90%以上、CS・TOF・FF献金トリプル、BF目標達成賞を受賞、クラブの結束力を示す「出席率90%

以上」の達成を誓い帰路についた。



(懇親会、次期大会の歓迎アピールに服部太郎冠者吠える)

唱して6月の音楽慰問を終えた。



(ポコ・ア・ポコと一緒に「鐘の鳴る丘」を歌う)



(大会参加6人の面々、簡単な朝食を終えてホテル前に勢揃い)

老人ホームで Hammondオルガンを演奏する

クラブの地域奉仕活動「老人ホームへの音楽慰問」は6月24日、南区のアミーユ星崎で開かれた。

年に2度、老人ホームに Hammondオルガンを持ち込んで入所者やその家族の人たちと一緒に歌を楽しむひと時、今年も想念寺の子ども合唱隊「ポコ・ア・ポコ」と小澤さんと30年来のパレー友だちの稲場さんが参加してくださいました。



(搬入搬出作業もみんなで力をあわせて、ドッコイショ)

鈴木先生が弾く映画「80日間世界一周のテーマ曲」を始まりに、ポコ・ア・ポコの「鐘の鳴る丘」、六十の手習いと謙遜される稲場さんのギター弾き語り「シクラメンのかほり」などを歌う。「故郷」「リンゴの唄」「青い山脈」など入所されている方には青春時代真っ只中の歌ばかり、みなさんから微かに漏れる歌声が楽しげな様子だった。

最後はいつもの通り、中日球場で試合の合間に演奏していた鈴木先生の「燃えよドラゴンズ」を全員で合

倉敷の旅

陽気も良くなり、心地良く旅行ができる季節となりました。私の場合、冬のおでかけと言え、専ら温泉&スキーばかりになってしまい、観光地等をふらふらするようなことはあまりありません。そんな私の春のおでかけレポートです。

先日、倉敷を訪れました。倉敷は2回目で、高校の修学旅行以来になりますが、その時の記憶が一切ありません。何をしていたのかと自問してしまうほど、何も覚えていません。私の高校の修学旅行はグループ行動で、次の集合場所までの行程は自分たちで決めるというものでした。そんな主体的な活動にも関わらず何も覚えていないということは、よっぽど人任せだったのだと反省しました。

新しい気持ちで訪れた倉敷「美観地区」ですが、町並みも美しく、ショッピングも楽しめる町でした。当初の目当ては倉敷帆布とジーンズショップでしたが、ショッピングを通じて、倉敷という地域が布地や繊維に自信をもっている場所なのだなと感じました。

町並みを歩いていると、重要伝等的建造物保存地区に残る最古の町屋建築である「井上家住宅」があります。日曜日は一般公開しているようで、住宅の中を見学することができます。現在も家主さんが住んでいるようですが、建設年代は江戸時代中期(18世紀初期頃)と伝えられ、当時のつくりそのままの建物が残っています。玄関を入ると地域のボランティアのおじさんに、「どこから来たの?」と尋ねられ、倉敷という地域の歴史について語っていただきました。

私は、「倉敷って何藩だったのですか?」と聞くと、「天領だった」とのこと。不勉強なので、天領といえば日本酒が浮かびます。そういえば岐阜にも天領というお酒があった。天領とは、江戸幕府の直轄領のことです。しかし、天領という言葉自体は明治初期から使われた言葉であり、旧幕府直轄領が天皇の直轄領になった時に「天領」と呼ばれるようになったため、遡って江戸時代のもも天領と通称するようになったそうです。

そのおじさんの話の中で印象に残っていることが一つあります。倉敷地区の小高い場所に阿智神社があり、

その神社を中心に町づくりが進められたそうです。インターネットによると、その神社を作った人たちは朝鮮半島から渡ってきた人たちで、彼ら一族は「製鉄」「機織」「土木」等の先進文化を担う技術集団だったと言われています。その先進技術が吉備の国の繁栄の礎を作ったと言われているそうです。その時代からの高い「機織」技術が現代にも続いていて、大陸から日本への文化の広がりを感じることができました。

最後に、おじさんの言う朝鮮半島から移り住んだ人達の話の中で、倉敷と同様に奈良の地も半島から移り住んだ人が多く、「奈良」という地名も朝鮮の言葉からきているというものでした。このことは名古屋に帰ってからインターネットで調べました。一般的に奈良とは、「均（なら）された土地」という意味からきているというのが常識的だそうです。しかし他説では、奈良が朝鮮語の国（ナラ）から来ているという節もあるようです。今でも使われている「あんじょうしてまっか？」という言葉は、朝鮮語の「アンニョンハシムニッカ？」が訛ったものだという節があり、ともに同じ意味を表わしているようです。本当でしょうか。自分の中では今でも韓流ブームなので、とても興味深いお話でした。

(万福寺 昭美)

聖書の言葉

【偽善の律法学者、ファリサイ人たちよ。あなたがたは、ひとりの改宗者をつくるために、海と陸とを巡り歩く。そして、つくったなら、彼らを自分より倍もひどい地獄の子にする。(マタイ 23. 15)】

【『新約聖書の原典は全てギリシャ語で書かれている。ヘブライ語でも、イエスの日常語であったと思われるアラム語でもなく、ギリシャ語で書かれた。当時のユダヤ人は律法をヘブライ語で読み、日常はアラム語を話し、外はギリシャ語で政治的取引や商売をしていた。その頃のヘレニズム社会（現代の中東）では普通のことであったと思われる。』初期ローマ国内のユダヤ人は、集会の自由、兵役の免除など比較的優遇された種族だったため、開放奴隷のように低く扱われた人々にはユダヤ人の宗教であるユダヤ教、キリスト教への改宗は魅力的な選択だった。上記の聖句はユダヤ教の布教活動を非難する言葉である。】

(www.sevenz.com/sevenZ/religion/greece.html)

Zoom・コンブビリッ

昭和25年(1950)、中日球場近くに引越した。2年も経てば小学校卒業だからと、市電で2回乗り換え片道1時間ほどを通学することにした。学校から帰ると毎日のように駄菓子屋と貸し本屋を巡り、日曜日は入場料子ども4円99銭の場末の映画館に通った。

民家を改造した近所の駄菓子屋は、4畳半ほどの土間に木箱を置いて板を渡し、ドロップ、グミ、ガムな

どが入った四角いガラスびんやカンシャク玉、花火、しょうや(めんこ)が詰まった箱が並べてあった。壁には古新聞で作った手作りの袋を沢山貼った大きな厚紙が吊るされ、奥は畳敷きの部屋でおばさんが店番をしていた。子どもたちが使うお金は、1日せいぜい5円か10円だった。

学校から帰ると直ぐ駄菓子屋へ走った。お目当ては壁一面の「ドラゴンズ選手名鑑」である。5円払って袋を勢よくビリッと剥がすと、中に酢昆布数枚とドラゴンズの選手のブロマイドが入っている。もしブロマイドの裏にホームランのスタンプがあれば、もう一度袋を剥がすことができた。毎日のように通えば、原田、杉浦、坪内、杉山たちは溜まるが、ファースト西沢がなかなか出ない。西沢を引けば最強の先発野手8人が揃い、それをおばさんに見せてピッチャー杉下の大きなブロマイドがもらえた。

ある日、ホームランが出てもう一度やってまた出た。剥がした2枚の袋をよく見ると、ともに古新聞の写真がある。物は試すと、3度目も写真の袋を引いてホームランだった。4度目も同じ、奥に居るおばさんが困ったような顔をしてこちらを見ている。5度目は文字だけの袋を引いて終わりにした。このときから、悪いことをしたような気がして、駄菓子屋通いは止めた。

最近「コンプガチャ」という言葉をよく聞く。「コンプガチャ」とは、携帯電話のゲームで、1回数百円を払ってくじを引くと、ゲームに必要な道具(アイテム)数種類のうちの1つが当たる。たとえば、一定期間内に3つの道具を揃えれば、さらに必要な道具が獲得できて先に進める。ここがミソで3つ道具のうち1つがなかなか当たらない。・・・分からない? それでは桃太郎の鬼退治に例えてお話をします。

プレイヤーは、鬼退治に出かけた桃太郎のお供、イヌ、サル、キジを確保するため、お金を出してくじを引きます。イヌ、サルはすぐ揃いましたが、キジがなかなか出ません。何回もお金を払いくじを引いて、やっとキジを当てて希少アイテムの「きび団子」をもらいました。これで次のステージに進めます。今度はお供が鬼と戦う武器、鎖鎌、刀、槍を揃える必要があります。またまたお金を出して先の繰り返しです。やっと3つ揃えて最高のご褒美、「鬼の金棒」をもらいました。ゲームにのめり込み「親名義のカード5枚を無断で使い、2ヶ月間の料金は400万円に達した」高校2年の子どもがいたそう。

森永キャラメルが20円だった当時、5円で紙袋のくじを剥がしてブロマイドを集めさせるのも、300円で電子くじを引いてアイテムを揃えさせるのも、同じ「商売」である。「世界で勝負できる産業を日本からの生むことが国益」とソーシャルゲーム大手の社長が語っているが、日本伝統の「おまけ文化」をもじった「新ビジネスモデル?」が世界に馴染むだろうか。

消費者庁は、未成年への高額課金を問題視し景品表示法に抵触するとして、同法の運用基準を改正し7月1日から規制する。